

2021年度 事業計画

A 職員人事

1 2021年度教職員名簿

◇校 長(1名)(兼務健康管理医1名) 黒 岩 敏 彦					
◇事 務 所 事務局長(1名) 佐 藤 眞喜子					
事務職員(若干名)					
事務次長	磯 田 典 子	事務主任	衣 川 美 佳		
教務担当	鷺 谷 麻 文	経理担当	井 越 みちよ		
教務担当	山 内 奈津子				
◇看 護 学 科 副校長(1名)					
教務部長(1名) 谷本 千亜紀					
実習調整者1名/専任教員8名以上					
<三 年 課 程>					
教務主任	上 野 佳 穂	実習調整者	大 井 ゆかり	教 員	渡 邊 由 美
教 員	内 田 洋 子	教 員	長 岡 宏 子	教 員	藤 澤 玉 美
教 員	川 勝 真由美	教 員	鍋 島 純 子		
教 員	白波瀬 裕 美	教 員	姫 井 智 子		
教 員	新 納 浩 司	教 員	姫 田 真 弓		
◇臨床検査学科・臨床工学技士専攻科 副校長(1名)					
◇臨床検査学科・臨床工学技士専攻科 教務部長(1名) 小 澤 優					
<第一臨床検査学科>		<第二臨床検査学科>		<臨床工学技士専攻科>	
教務主任 (1名)	小 西 靖 志	教務主任 (1名)	小 澤 優 (兼務)	教務主任 (1名)	泉 田 洋 志
(教員は2学科を兼務)(7名以上)				(3名以上)	
教 員	居 内 早 希	教 員	林 敬 子	教 員	飯 田 安 彦
教 員	五十川 團 哉	教 員	宮 井 優	教 員	多 田 俊 介
教 員	小 川 秀一郎			教 員	古 谷 仁 志
教 員	木 澤 明 宣				
教 員	後 藤 直 樹				
教 員	中 前 雅 美				

2 各種委員会担当者一覧

委 員 会 名	看護学科三年 課程	臨床検査学科	臨床工学技士 専攻科	事務所
防火委員会	長 岡	五十川	飯 田	山 内
新聞委員会	白波瀬	宮 井	飯 田	*佐 藤 鷺 谷
学校祭準備委員会	姫 井	*宮 井	多 田	井 越

体育祭委員会	*新 納	木 澤 五十川		衣 川
まちの保健室委員会	*内 田	林	泉 田	磯 田
福利厚生委員会	川 勝	居 内	多 田	*山 内

(注) *印は委員長

B 学生在籍状況及び担任一覧

区 分	学年/期生	在籍数	教室番号	担 任	
看護学科三年課程	1年/43期	42	302	内 田	長 岡 白波瀬
	2年/42期	43	305	新 納	姫 井 姫 田
	3年/41期	39	303	鍋 島	大 井 川 勝
	計	124			
第一臨床検査学科	1年/49期	30	101	居 内	林
	2年/48期	39	102	中 前	小 川
	3年/47期	41	103	宮 井	
	計	110			
第二臨床検査学科	1年/49期	18	101	後 藤	
	2年/48期	18	102	五十川	
	3年/47期	17	201	小 澤	
	4年/46期	26	202	木 澤	
	計	79			
臨床工学技士専攻科	24期	20	203	飯 田	多 田
合 計		333			

C 事業計画目標

学校経営における環境は、少子化や大学の台頭など受験生確保が一段と厳しい状況になっている。

令和2年度学校基本調査より2020年3月に高等学校を卒業した生徒は、1,037,284人でうち大学・短大への進学者は58.6%、専門学校進学者は24.0%でどちらも過去最高であった。就職を希望した高校生は14.6%である。

2021年度の学校目標を以下の通りとした。

目 標：「実践力のある医療人の育成」

看護大学の台頭、18歳人口の減少など学生募集の環境は非常に厳しい中で、本校に入学し卒業していく学生を実践力のある医療人として育成することを目指していきたいと考えている。

本校は、学校案内の通り「クロスオーバーな学び」、「抜群の就職力」、「手厚い経済支援」を学校の特徴として出している。就職については求職数以上の求人情数があること、また、それぞれの学科に奨学金制度があること、そして学内でのチーム医療を経験することによって実践力のある卒業生輩出に力を入れている。実践力を付けるために本校では卒業生の講師を迎え現場での医療を直接講義や実習で学べることや教材の充実を常に心がけ、現場に近い形で実習機材を揃えている。

学生たちは自分で掲げた自己目標の達成を目指し、指導を受けているがその中で明るく、のびのびとした学生生活を送っており、オープンスクールにきた受験生の本校を選んだ理由の第一位は「学校の雰囲気良かった」である。学生同士、教員と学生の関係が良好であることが大きな特徴である。このような学校生活を経たのち卒業した学生を、さすがに本校の卒業生はここが違うと言われるような人材に育成していきたい。

1. 基礎学力定着

基礎学力を定着させ、学習への意欲を引き出す。

①学生の学習習慣の定着

現在の学生は学習習慣がきちんと定着していないことが多く、入学後、学習習慣の定着を最初の目標とする。臨床検査学科で取り組んでいる月曜テスト(週1回月曜日に小テストを実施)や各学科で取り組んでいる小集団指導などである。

②基礎学力向上のための取組み

現在の高校での理科系の授業は、基本的内容の授業になっていることが多く、本校に入学して来る学生のほとんどが、理系分野の基礎学力が低下している傾向にある。しかし、看護師、臨床検査技師になるためには生物や化学の基礎学力は必須であるため、入学初めの時期に全学科学生対象にリメディアル教育(補習授業)を実施している。また推薦入学試験後入学まで期間を有効活用できる入学前学習を紹介し、入学前の事前学習をよりきめ細やかに行えるよう取り組んでいく。

臨床工学技士専攻の入学生においても、基礎学力をしっかり固めてから専門知識取得に取り組んでいる。

2. チーム医療への取組

①積極的な学科間交流

新型コロナウイルス感染防止により、集団での行事が制限される中で、昨年行ったリモートによる「チーム医療セミナー」など今年度もできる限り学科間交流ができるよう取り組んでいく。

授業に関しては看護学科教員が体位変換・車イス、ベッド移乗の技術演習を臨床検査学科の学生に行い、臨床検査学科教員が心電図検査・検体検査についての講義・実習を看護学科学生に行い、同様に臨床工学技士専攻科の学生に看護学科及び検査学科の教員が授業し、各学科の教員が学生の授業を通して交流を図っている。

②サークル活動支援

各学科の垣根を越えて、放課後等の時間を利用してサークル活動をすることを学校が支援している。活動場所の提供や活動援助金を助成している。

3. オープンスクールへの取組

実践力のある医療人として育てるための1つとして、「臨床判断能力ある医療人」という事も上げられる。自分たちの力で考え、実践できるというプロセスにおいて判断能力が付いていく。その中でオープンスクールへの取組がある。オープンスクールは在校生が企画・運営している。今年度は6月から実施予定であるが、当面は在校生の参加を見合わせている。状況が改善されれば例年通り参加できるようにしたい。

4. 学生生活への支援

学生の生活への支援は、学生生活を充実させるためのもので、それによって教育的な効果や人間的な成長を促すことができる。

①学生相談室におけるカウンセリングの充実

臨床心理士の先生にカウンセリングを依頼し、悩みをかかえている学生たちが気軽に相談できる学生相談室を実施している。

②情報通信技術（ICT）を活用するための基礎能力やコミュニケーション能力の強化に関する内容の充実

看護学科のカリキュラム改正に先立ち情報通信技術（ICT）の活用に取り組んでいく。学内ネットワークについては今年度はより充実したものへの変更を考えている。

③アメニティの段階的な向上

学校内のアメニティを順次更新している。学生が生活しやすい空間作りをしている。

5. 学生募集計画

現在、大学生の就職内定率は2020年12月の発表では82.2%で前年同日4.9ポイント低くなっている。また高校生の就職内定率は80.4%（令和2年11月）である。専門学校においては、就職内定率はほぼ100%であり学生募集活動の大きな力となっている。

また、看護大学との差別化を図るため、専門学校は職業人の育成であり、「実践力がついた卒業生」「人間的に成長した卒業生」というキャッチフレーズを、全面に出していきたいと考えている。

①入学試験の改革

2021年度生の受験生は臨床検査学科で激減している。定員の確保が非常に難しい状況である。今後いかに臨床検査学科の受験生を増し、入学生の質を一定の水準で保てるよう入学試験制度を改革しながら実施していく。2021年度生の募集は制度としては安定した形で入学試験が行えた。

2022年度生は1月の入学試験を臨床検査学科では、大学共通テスト終了後に実施する形で考えている。

②見学会および説明会

a オープンスクール

オープンスクールは、体験を主体とし実施するが、定位が限られているためオンラインも同時開催とする。

b 学校見学会

学校見学会は、学校全体のPRを目的として行う。また、各月のキャッチフレーズを考えている。たとえば9月頃なら「推薦入試直前対策見学会」など学校見学会に意味を持たせるようにしていく。

c 再進学者説明会

再度専門学校へ進学を希望する人や、社会人として働いたのち専門学校へ進学を希望する人達向けの説明会である。実施時間は午後6時からである。

d 受験保護者説明会

昨年はオープンスクールへは保護者の参加を断っていたが、特に検査学科は保護者への呼びかけが大事である事から今年度は保護者説明会を午後と夜の時間帯に設定する予定である。

以上の説明会については新型コロナウイルス感染防止のため、オープンスクールでは定員制を設けること、またそれぞれの会において「密」にならない工夫をしながら実施していく。

e 学校訪問

京都の高校訪問を継続する。近郊の高校へは何度か訪問している。新型コロナウイルスの件が落ち着いたら地方への高校への訪問を再開する。

f 臨床検査学科の学生募集活動

臨床検査学科の学生募集については重点的に取り組んでいるが、受験生の確保が難しくなっている。何度も高校へ訪問したり、業者主催の説明会には必ず出席する等している。

g 臨床工学技士専攻科の学生募集活動

臨床工学技士専攻科は毎年受験生確保に苦慮している。崇城大学との連携校入学試験が始まり2021年度生は5人の入学が決まっている。2022年度生も同程度が受験予定である。指定校からの確保や臨床検査技師専門学校への説明会などは2020年度は実施できなかった。内部進学者への取り組みも含め方針を立て定員確保を目指していく。

③ホームページのリニューアル

受験生のほとんどがホームページを見て、インターネットで資料等を請求してくる。また、新型コロナウイルス感染防止のためオープンスクール等も人数制限をして行っているため、なかなか学校の状況等を発信できていない。今年度はホームページ上にコンテンツを作成し、デジタルオープンスクールを開発していく、いつでもどこでもオープンスクールの様子が見られるようにする。

6. 学生への啓発運動

①情報リテラシー(適切な活用)教育

スマートフォンやタブレット端末の普及により、学生がネットトラブルに巻き込まれることや学生自身が発信した情報が有害である場合もあり、今後情報リテラシー(適切な活用)について教育していく。2019年度より、京都府警察本部サイバー犯罪対策課ネットセキュリティ・サポートセンターに講師派遣を依頼し、ネットモラル・サイバー犯罪被害防止講演会を行っている。

②危険ドラッグ乱用防止

危険ドラッグ防止啓発運動について京都府より防止指導員の推薦や学生啓発リーダーなどを推薦している。2021年度より
が活動始を始める。また、学生向け講義を上京警察よりDVDを借りて行っている。

③禁煙活動

本校では平成15年5月健康増進法の施行を受け、同年8月より学内を全面禁煙、また学校周辺地区も全面禁煙で進めてきた。また、「NPO法人京都禁煙推進研究会」に加盟し、新入生の禁煙教育、各学年ごとの禁煙教育をしている。

7. 地域への貢献

地域社会に情報を発信したり、地域社会への貢献を広めたりすることで、学生募集につなげたい。市民公開講座は、新型コロナウイルス感染防止の状況を踏まえ実施計画を立てる。

8. 働き方改革への取組

①本校のような小規模の学校では、教員は学生への対応だけでなく、事務業務をすべて行いながら授業準備、実習指導と多種多様な業務をしなければならない。そのような状態の中で、教員の疲弊感が大きくなりがちである。また、学生の学力低下により教員への負担が大きいことや実力の上がない学生への対応が大きくなっている。2019年度より国が進めている働き方改革も意識しながらより一層働きやすい環境を整えていきたいと考えている。

②同一労働同一賃金への取組として、パートタイマー労働者の就業規則の作成、パートタイマー労働者の給与規定、パートタイマー労働者の賞与規定について今年度より実施予定である。

9. 看護陽性指定規則改定・臨床検査技師養成所指定規則改定への取組

2022年4月より指定規則の改定によりカリキュラムの変更がある。看護学科は1.総単位数の変更、2.情報通信技術(ICT)を活用するための基礎能力やコミュニケーション能力の強化に関する内容の充実、3.臨床判断能力等に必要な基礎能力の強化のための病態生理学等の内容の充実、4.対象や療養の場の多様化に対応できるよう「在宅看護論」を「地域・在宅看護論」に名称変更し内容充実、多職種連携の内容追加、5.各養成所の裁量で領域ごとの実習単位を一定程度自由に設定できるよう、臨地実習の最低単位数を設定、以上の5重点項目を検討していく。

臨床検査学科は、基本的な考え方は臨床検査技師の養成に必要な教育内容と教育目標及びその単位数と臨地実習の1単位の時間数の変更である。単位数は、専門分野が現行60単位から67単位となる。病態学は1単位増、生理機能検査学は1単位増、検査学総合管理学は1単位減医療安全管理学1単位増、臨地実習が5単位増となる。臨地実習時間数の考え方は現在の1単位45時間から、1

単位 30 時間から 45 時間となる。現在は、臨地実習の科目毎の単位数は定められていないが、変更後は 4 単位程度は生理学的検査と定められた。また大学等の臨地実習は 1 週間程度の見学実習であったが、どの養成所も同じ 12 単位となる。今回の変更は臨地実習についてが大きな点である。以上の点を踏まえ検討していく。2021 年前半に作成し 2021 年 12 月に京都府文教課、医療課へ変更に必要な書類を提出する予定である。

10. 自己点検、自己評価について

上記 2022 年 4 月のカリキュラム改訂で学校自己点検、自己評価が必要となってくる。昨年学校機能評価委員による評価を頂きホームページ上に公開した。今年度は学校全体の中長期的な目標を設定し、問題点解決を目指していきたい。

2021 年度学科別事業計画

看護学科

1 教育実践計画

【教育目的】

知識と理論に裏付けられた看護実践能力の基礎を身につけ、社会の変化に関心を持ち、自らを変革させながら、保健・医療・福祉に貢献できる人材を育成する。

【教育目標】

1. 人々の健康と生活を幅広い視野と自然・社会・文化的環境の相互作用の観点から理解できる。
2. 知識と理論に裏づけされた看護実践能力の基礎的能力を養う。
3. 保健医療福祉チームの中で協働しながら看護専門職としての役割を遂行できる能力を養う。
4. 看護専門職として必要な倫理的感性と責任感が持てる。
5. 生涯にわたり自ら探求する自己学習能力を身につける。

学生が自己学習力を身につけ実習で看護を考え実践できるように、全教員が学習方法の指導と実習で日々思考できる指導を実践する。また、教育理念が達成できるカリキュラムを完成させる。

1) 活用できる知識の定着を促し、国家試験合格へつなげる

- ・ 1 年次から学習の動機づけを行い、学生が学習方法を身につけ反復学習が実践できるよう、全教員が指導方法を検討・実践する
- ・ 学年担当を中心に学生の現状を分析し、課題解決のための方針を明確し、全教員で支援する
- ・ 新カリキュラムに移行するため、単位修得が確実にできるよう支援する

2) 学生の学びを促進する教育方法を身につける

- ・ 研修会・学会参加・研究活動を奨励する
- ・ 基礎看護学を全教員で教授し、看護の基礎を理解し教育できる力をつける
- ・ ICT を活用した教育方法を開発する

3) 看護職をめざす受験生の獲得をする

- ・ PR活動に積極的に参加し、他学科を含めた本校の特徴をアピールする
- ・ 受験生の動向や入学試験結果を分析し、入学試験の課題を明確にして取り組む

4) 教育理念達成のためのカリキュラムを完成する

- ・ アドミッション・ポリシーをふまえ、教育理念、ディプロマ・ポリシーから、カリキュラム・ポリシーを明確にし、教育方法まで一貫性のあるカリキュラムを完成する

5) 卒業生の看護師としての成長を支援する

- ・ ICT を活用し、ホームカミングデイを実施する

臨床検査学科

本校の学生は、「医療に携わりたい」、「患者の役に立ちたい」という気持ちを強く持って入学してくる。彼らの思いに応えるべく、臨床検査学という専門的な知識と技術の習得と、医療人としての心を教育し、社会に役立つ臨床検査技師を育成する。また、臨床検査に関わる自動機器やAI技術が進歩する中、卒業後も長く現場で活躍できる臨床検査技師教育を視野に入れなければいけない。チーム医療に積極的に参加し、病院臨床検査室の既成概念から脱却し病棟臨床検査業務や在宅臨床検査業務、また、認知症領域臨床検査でも活躍できる人材育成を目指す。学生募集の観点では、少子化が進む中、臨床検査技師養成大学の設立が京都・大阪でも進み、本科の入学生確保は大変困難な時代に入った。今までと同じことをしている学科・学校運営が危ういことを職員全員が理解し、各学科・各教職員が協同行動をとれるよう努力する。

「心豊かな医療人の育成」

1 学科教育方針

「知識、技術、心の調和のとれた教育を実践する」

2 学科教育目標

- ① 臨床検査技師国家試験の合格に十分な基礎学力を養う
- ② 医療に貢献できる技術を養う
- ③ 医療人として備えるべき心を養う
- ④

3 具体的教育目標と行動

【第一臨床検査学科・第二臨床検査学科】

- ① 知識・技術の定着を図るため、学生個々にipadを所有させ、多彩な学習資料を提供する
- ② より効果的な教育を実践するため、e-ラーニングを導入する
- ③ チーム医療を意識し、グループワークを取り入れた教育を行なう
- ④ 教育重点項目として心電図・腹部超音波・血液型判定・交差適合試験・検査データの解釈とする
- ⑤ 臨床検査技師に必要な医用工学の基礎知識を教育し、また、臨床工学技士とのダブルライセンスを目指す学生には、第2種ME技術実力検定試験合格に向けた補講をおこなう
- ⑥ 医療人として備えるべき常識や心を養える教養科目や特別講義、学外学習を計画する

4 学生募集活動

- ① 京都・滋賀・奈良・大阪と山陰地方を中心に高校訪問と会場形式進路相談会に参加する
- ② 参加者の満足度の高いオープンスクールを模索し開催する
- ③ 企業の学生奨学金制度を高校進路部、就職担当者へ伝える
- ④ 進学予備校を訪問し臨床検査の紹介をする
- ⑤ 本校看護学科受験生の第二志望として臨床検査学科受験を受け入れる
- ⑥ 受験保護者説明会を新たに設定する
- ⑦ 他専門学校と協力し学生募集、勉強指導等を行う

臨床工学技士専攻科

近年、医療機器の多様化・高度化に伴い、その操作や管理業務に必要とされる知識・技術の専門性が高まっている。そして医療技術の発展とともに、臨床工学技士の業務内容はますます充実し、需要も増加する傾向が見られる。当科ではこのことを踏まえ、高い専門的な知識や技術を習得し、臨床の現場で活躍できる医療人の育成を目標とする。

1 教育方針

医療資格養成校出身者と理工学系大学出身者の特徴を尊重し、各々の専門性を活かしながらキャリア形成ができる環境を提供し、チーム医療に貢献できる人材育成に努める。

2 教育目標

- 1) 基礎学力をしっかり固めてから専門知識を習得して国家試験合格を目指す。
- 2) チーム医療の重要性を理解させ、コミュニケーション能力の向上を図る。
- 3) 医療や社会的情勢に興味・関心をもたせ、探究心を育む。

3 教育計画

- 1) 臨床工学技士として必要な医療・工学科目の基礎を理解させる。
併せて学会等に参加して医療現場における役割や業務の概要を学ばせる。
- 2) 臨床実習で実際の業務を学び、臨床工学技士としての心構えを身に付けさせる。
- 3) 第2種ME技術実力検定試験を受験して医療機器の知識や技術の向上を図る。
- 4) 国家試験対策の学習指導を行う。

4 学生募集

- 1) 指定校（崇城大学）との連携体制の充実
大学4年次に本校で1年間学び、大学卒業（本校卒業）と同時に臨床工学技士免許取得を可能としたダブルスクールによる連携教育であり、長期的な定員確保に向けて取り組んでいく。連携教育6年目となる今年度もより多くの学生を受け入れるために募集活動とあわせて教育内容の充実を図る。
- 2) 大学・専門学校訪問による募集活動
理工系大学や他の医療系養成校への訪問等により受験者数増加を図る。
- 3) 内部進学希望者の増加に向けての活動
内部進学希望者を対象とした学内オープンスクールやクラス毎の学科説明会を実施して、より多くの学生への周知を図る。臨床工学技士の業務と他職種との連携の理解を深め、ダブルライセンス取得やスキルアップの向上を目指しながら、医療人としての進路選択が広がることを伝えていく。

事 務 局

学校目標の「実践力ある医療人の育成」を意識して、事務局の運営をしていきたい。学生生活への支援や、地域への貢献によって学生募集活動がスムーズにいくようにしたい。また、今年度も教職員の働き方改革並びにパートタイマー労働者の同一労働同一賃金について取り組んでいく。

1. 学生生活への支援

学生生活の支援の中で事務局は学生相談室におけるカウンセリングについて運営している。臨床心理士の吉田先生と連絡を取り合いスケジュールの調整や変更をし、学生へのお知らせなどを行う。

2. 学生募集関係

学校案内と学生募集要項の更新

学校案内と学生募集要項は前年度より取り組んでいる内容であり、2022年度生用の学校案内は4月末完成を目指している。2022年度生用は昨年、新型コロナウイルス感染防止を考え、写真撮影を11月までに終わらせることとした。また遠隔授業の紹介ページを追加した。

今年度は、2023年度生用の学校案内と募集要項の作成に取り組んで行く。

3. 地域への貢献

まちの保健室への取り組みは、企画段階から広報活動、当日の実施と幅広い範囲で実施している。広報活動については、より多くの方に参加してもらえるよう、町内へのビラ配りの範囲を広げたり、京都新聞への掲載などタイムリーな対応を行っている。今年度も新型コロナウイルス感染防止を考えながら実施できるように取り組んでいく。

4. 財政の健全な運営

今年度は昨年度より在校生の数が減少しており、収入面で非常に苦しい状態となる。従って支出面をどのように切り詰めていくかが課題となる。特に今年度は赤字予算となっており、できる限り無駄を省き支出面を抑えられるよう努力する。